

2-2 協会・支部・会員企業の活動事例

令和5年度 社会貢献活動中央行事で顕彰した事例のうち、前項で紹介した事例の他、ここでは次の47の社会貢献・SDGs活動事例と6の広報活動事例を紹介します。

社会貢献・SDGs 活動事例

No.	都道府県	協会・企業名	活動内容
1	新潟県	一般社団法人 新潟県建設業協会村上支部	新潟県北部豪雨の災害復旧活動／鳥インフルエンザ防疫活動
2	山梨県	一般社団法人 峡北地区建設業協会	令和4年8月の局地的豪雨における災害復旧活動
3	静岡県	一般社団法人 島田建設業協会	令和4年9月の台風15号における災害復旧活動
4	滋賀県	一般社団法人 滋賀県建設業協会伊香支部	令和4年8月の豪雨における災害復旧活動
5	和歌山県	株式会社 小森組	土砂災害による国道閉鎖時の災害復旧活動
6	岩手県	一般社団法人 岩手県建設業協会奥州支部	鳥インフルエンザ防疫活動
7	岩手県	一般社団法人 岩手県建設業協会千厩支部	鳥インフルエンザ防疫活動
8	群馬県	一般社団法人 群馬県建設業協会太田支部	CSF（豚熱）防疫活動
9	群馬県	一般社団法人 群馬県建設業協会桐生支部	CSF（豚熱）防疫活動
10	群馬県	一般社団法人 群馬県建設業協会前橋支部	鳥インフルエンザ防疫活動
11	群馬県	一般社団法人 群馬県建設業協会館林支部	CSF（豚熱）防疫活動
12	埼玉県	一般社団法人 埼玉県建設業協会大里支部 一般社団法人 埼玉県建設業協会川越支部 一般社団法人 埼玉県建設業協会北埼玉支部 一般社団法人 埼玉県建設業協会飯能支部	鳥インフルエンザ防疫活動
13	岡山県	一般社団法人 岡山県建設業協会及び関係する8岡山県建設業協会	鳥インフルエンザ防疫活動 （及び放送メディアによる広報活動）
14	宮崎県	高鍋地区建設業協会	鳥インフルエンザ防疫活動
15	宮崎県	日向地区建設業協会	鳥インフルエンザ防疫活動
16	群馬県	一般社団法人 群馬県建設業協会	KAMIKABEによる防災支援活動
17	山梨県	一般社団法人 甲府地区建設業協会	防災無線機の貸与および被災情報伝達訓練
18	山梨県	一般社団法人 市川建設業協会	テロ未然防止協定に関する活動
19	奈良県	一般社団法人 奈良県建設業協会	防災総合訓練
20	北海道	丸彦渡辺建設 株式会社	本社ビルロビーを利用した地域活性化
21	福島県	渡富建設 株式会社	地域小中学校の教育活動への支援
22	静岡県	株式会社 小原組	～未来の担い手の為に～「ふるさと未来塾」の開校
23	岩手県	一般社団法人 岩手県建設業協会一関支部	重要文化的景観地区内の「春・夏水路整備」活動
24	宮城県	宮城県建設業協会仙南支部	県道花壇への季節の花植えの美化活動（スマイルロードサポーター）
25	宮城県	宮城県建設業青年会	みやぎスマイルロード・プログラムにおける清掃活動
26	富山県	富山県建設業協会砺波支部青年部会	指定史跡増山城址遊歩道の草刈り、清掃、側溝清掃

No.	都道府県	協会・企業名	活動内容
27	佐賀県	一般社団法人 建設業協会佐賀	佐賀県庁周辺道路の清掃活動
28	北海道	岩田地崎建設 株式会社	豊平川清掃活動
29	北海道	不二工営 株式会社	サイクリングロードの清掃活動
30	岩手県	宮城建設 株式会社	清掃活動「宮城の日」
31	宮城県	伸和興業 株式会社	地域に調和した環境活動
32	宮城県	株式会社 春日部組	河川清掃美化運動へ参加と月1町内美化自主活動
33	福島県	佐藤工業 株式会社	福島市泉地内泉地下歩道清掃活動
34	福島県	藤田建設工業 株式会社	町の中心「亀ヶ城公園」の清掃奉仕活動
35	福島県	石川建設工業 株式会社	多年にわたる地域清掃活動
36	群馬県	田畑建設 株式会社	地域の環境美化ボランティア
37	神奈川県	株式会社 小島組	公園の清掃・美化活動
38	長野県	株式会社 小宮山土木	国道ゴミ拾いボランティア活動
39	静岡県	株式会社 小松組	ため池（蛭沢池）の魚の保護と移設についての課外授業
40	富山県	株式会社 牧田組	六渡寺海岸の清掃活動
41	富山県	安達建設 株式会社	道路愛護ボランティアで地域を美しく
42	石川県	池田建設工業 株式会社	千鳥ヶ浜海岸清掃活動
43	鹿児島県	株式会社 常盤建設	川尻海岸の美化作業
44	宮城県	寺嶋建設工業 株式会社	献血推進活動
45	富山県	株式会社 ミヤマサ建設	地域の防犯パトロール
46	兵庫県	株式会社 秋山組	租税教室を通じ建設業の重要性を発信
47	愛知県	株式会社 加藤建設	『自然観察会』を通じた次世代への自然環境教育

広報活動事例

No.	都道府県	協会・企業名	活動内容
48	青森	青森県建設業協会青年部会東青支部	作業服アップデートと交流会でのファッションショー（新4Kを目指して）
49	和歌山	有田建設業協会和歌山有田建有会	建設業のイメージアップのために
50	栃木	永野川改良復旧工事等安全協議会	一級河川『永野川』災害復旧事業での広報活動
51	滋賀	有限会社 竜王興産	現場見学会や試乗体験の日常的な開催 SNS・メディアを活用した広報活動
52	栃木	一般社団法人 栃木県建設業協会	フォトコンテスト（Instagram）
53	岡山	蜂谷工業 株式会社	写真集の発刊ならびに写真展の開催

事例

1

新潟県

新潟県北部豪雨の災害復旧活動／鳥インフルエンザ防疫活動（一般社団法人 新潟県建設業協会村上支部）

令和4年8月3日から4日にかけて、前線が停滞し、新潟県の北部地域では非常に激しい雨が降り、記録的な豪雨となった。この豪雨により、村上市や関川村では家屋の浸水や、国道113号等への土砂・流木が流出堆積する災害が発生した。北陸地方整備局、新潟県から当協会に災害協定に基づく災害支援要請があり、迅速に応急対応を行うため、現場に近い被災地である村上支部の会員は昼夜を問わず、懸命な作業を実施し、早急の災害復旧を図った。

また、令和5年1月5日、村上市の養鶏場において、高病原性鳥インフルエンザの発生が確認された。新潟県では鳥インフルエンザ対策本部を設置して、対象施設の鶏（130万羽・県内過去最大）の殺処分や消毒ポイントの設置等の防疫措置を決定した。新潟県との災害協定に基づく応援要請を受け、直ちに会員会社らが施設敷地内に設けられた埋却予定地で殺処分鶏の運搬・埋却作業の体制を整えた。作業には会員16社が従事し、建設機械等をはじめ多くの資機材を投入して、24時間体制で埋却作業に努めた結果、1月19日には全埋却物の投入及び埋戻しが完了した。



新潟県北部豪雨災害支援活動



鳥インフルエンザの防疫支援活動

事例

2

山梨県

令和4年8月の局地的豪雨における災害復旧活動（一般社団法人 峡北地区建設業協会）

令和4年8月24日午後7時頃、北杜市大泉町が局地的な集中豪雨に見舞われ、1時間に130mm～150mmの記録的な大雨となった。この大雨により、県道11号・北杜富士見線の複数箇所、土砂崩落を引き起こし山梨県内でも前例のない大規模災害となった。翌日、山梨県から災害応急復旧の要請を受け、現地の確認を行ったところ大量の土砂と流木が道路を覆いつくし、土砂崩落量は約8,000m³、道路面より70mの高さから崩れ落ち落石防護柵や擁壁、転落防止柵がなぎ倒されていた。

被害箇所は9箇所及び、まずは作業車1台分が通行できるよう土砂や流木を撤去後に本格的な応急復旧作業に入った。作業には当協会員18社によるローテーションで行い、土砂・流木・転石・壊れた落石防護柵等の撤去・搬出作業に追われた。その後、山側土留め部への仮設防護柵の設置（5カ所）と谷川路側部へのボトルユニット（4カ所）の設置等を行い約2週間で作業を完了させた。全面通行止めで作業を実施し、山梨県等の点検後、約1か月後の9月29日に全面開通となった。



作業中



復旧後

事例
3

静岡県

令和4年9月の台風15号における災害復旧活動（一般社団法人 島田建設業協会）

台風15号は、令和4年9月23日（金）～24日（土）に島田市内の24時間最大雨量が500ミリを超えるなど、記録的な大雨をもたらした。静岡県内では中西部を中心に、死者3人、軽傷6人、住家被害が全壊9棟、半壊2,366棟、一部損壊3,292棟、床上浸水5,705棟、床下浸水4,438棟の被害があり、崩土による孤立集落の発生や停電、通信障害、断水、鉄道や道路の通行止めなどライフラインに大規模な影響があった。（令和4年11月28日静岡県危機報道官発表）

島田建設業協会の会員企業は、災害協定に基づき、地域住民の一刻も早い「安心・安全」を確保するため、災害の応急復旧に迅速に全力で対応した。



(国) 473号線島田市福用での碎石流出土砂等を撤去



5.3.1 (水) 建通

事例
4

滋賀県

令和4年8月の豪雨における災害復旧活動（一般社団法人 滋賀県建設業協会伊香支部）

令和4年8月4日からの豪雨によって伊香支部管内では河川の氾濫、道路への土砂流出が発生したため、滋賀県長浜土木事務所木之本支所からの応援協力要請を受け、伊香支部は会員のパトロールにより各地域の被害状況を把握し、会員を被害箇所へ派遣した。

長浜市余呉町菅並では、県道中河内木之本線が高時川の氾濫により一時通行不能に陥ったものの、会員の迅速な復旧作業により5日午後には片側通行が可能になるまで回復した。

この他の被害箇所でも地域の日常生活の早期回復に向けて復旧作業に尽力した。



事例

5

和歌山県

土砂災害による国道閉鎖時の災害復旧活動（株式会社 小森組）

令和4年6月26日午後6時50分頃、大雨によりライフラインである国道42号線沿いの法面が崩壊し、完全に国道を塞いだ。日曜日の夕方であったが、小森組従業員が偶然居合わせたため、同社専務に連絡をとり、そこから社内連絡網を使ってすぐに作業に参加できる従業員と重機の確保、残土と倒木を仮置きするための自社所有地の開放を実施し、紀南河川国道事務所と連携しながら全員が一丸となってライフラインの早期規制解除を目指し、夜を徹しての土砂の撤去を行い、翌朝には土砂の撤去が完了した。

今回、迅速に災害対応できたのは、日曜日の夜にもかかわらず多くの同社社員が各々に緊急性を理解し同じベクトルに向かって、作業を進めていったからである。

上記の災害対応が評価され、同社は令和4年12月12日 国土交通省近畿地方整備局長から「局長感謝状」を贈られた。



発生現場



事例

6

岩手県

鳥インフルエンザ防疫活動（一般社団法人 岩手県建設業協会奥州支部）

令和5年3月13日、岩手県胆沢郡金ケ崎町で高病原性鳥インフルエンザの疑いが発生し、14日に鳥インフルエンザが確定。岩手県と岩手県建設業協会が締結している「家畜伝染病における緊急対策業務に関する協定」に基づき、奥州支部に対し埋却処分に関する要請があった。鳥インフルエンザ等発生時対応要領に基づき、人員の確保や重機の手配を行うとともに埋設溝を掘り、殺処分した鶏の運搬・埋却を行うなど防疫対策に大きく貢献した。



殺処分した鶏の埋却作業



夜間の埋却作業

事例
7

岩手県

鳥インフルエンザ防疫活動（一般社団法人 岩手県建設業協会千厩支部）

令和4年5月11日、岩手県一関市藤沢町内で高病原性鳥インフルエンザの簡易検査で陽性が確認された。翌12日に疑似患畜の決定を受け、岩手県建設業協会千厩支部は県との「家畜伝染病における緊急対策業務に関する協定」に基づき、防疫対応における埋却作業などに従事した。

事案発生から感染拡大防止のために迅速な対応が求められ、第一報を受けた直後から人員の確保や重機の手配を実施。埋却作業では現場の状況に即した掘削を行うなど、防疫対応に大きく貢献した。



殺処分した鶏の埋却作業



殺処分した鶏埋却作業(石灰散布)

事例
8

群馬県

CSF（豚熱）防疫活動（一般社団法人 群馬県建設業協会太田支部）

令和4年4月21日、太田市内の養豚農家から群馬県にCSF疑いの通報があり、県と国による検査を経て4月22日に陽性が確定。群馬県と本会は「特定家畜伝染病発生時における埋却処分に関する協定」とそれに基づく細目協定を締結しており、協力依頼の連絡を受け作業を開始した。翌日から埋却場所の仮囲いと掘削を開始。当面24時間体制3交代制で作業を実施し、従事企業23社、作業員延べ221名を動員。全9日間作業を継続し、5月2日に全ての作業を完了した。

本支部では、社会的責任において群馬県との協定に基づき、会員企業は懸命な防疫業務に従事した。本会行動指針で「地域を守る建設業の3つの備え」として、災害対応組織力の強化を掲げ様々な体制を築き、今回の豚熱発生に対する防疫作業においても、会員企業は使命感により連日連夜作業に取り組んだ。

こうした取り組みが認められ、令和4年7月1日、群馬県知事から協会本部及び群馬県農村整備建設協会に、群馬県農政部長から太田支部及び群馬県農村整備建設協会太田分会にそれぞれ感謝状が贈られた。



作業状況



群馬県農政部長から太田支部長に感謝状贈呈

事例

9

群馬県

CSF（豚熱）防疫活動（一般社団法人 群馬県建設業協会桐生支部）

令和4年5月9日、桐生市内の養豚農家から群馬県にCSF疑いの通報があり、県と国による検査を経て5月10日に陽性が確定。群馬県と本会は「特定家畜伝染病発生時における埋却処分に関する協定」とそれに基づく細目協定を締結しており、協力依頼の連絡を受け作業を開始した。翌日から埋却場所での掘削を開始。従事企業7社、作業員延べ94名を動員。休工期1日をはさみ全7日間作業を継続し、5月18日に全ての作業を完了した。また、同年6月14日には再び桐生市内の養豚農家から通報があり、6月15日に陽性が確定。翌日から作業を開始し21社、延べ165名を動員し休校日をはさみ全11日間作業を実施し、6月28日に全ての作業を完了した。

本支部では、社会的責任において群馬県との協定に基づき、会員企業は懸命な防疫業務に従事した。本会行動指針で「地域を守る建設業の3つの備え」として、災害対応組織力の強化を掲げ様々な体制を築き、今回の豚熱発生に対する防疫作業においても、会員企業は使命感により連日連夜作業に取り組んだ。

こうした取り組みが認められ、令和4年7月1日、群馬県知事から協会本部及び群馬県農村整備建設協会に、群馬県農政部長から桐生支部及び群馬県農村整備建設協会桐生分会にそれぞれ感謝状が贈られた。



作業状況



群馬県農政部長から桐生支部に感謝状贈呈

事例

10

群馬県

鳥インフルエンザ防疫活動（一般社団法人 群馬県建設業協会前橋支部）

令和5年1月18日、前橋市内の養鶏場から群馬県に鳥インフルエンザの疑いの通報があり、県と国による検査を経て1月19日に陽性が確定。群馬県と本会は「特定家畜伝染病発生時における埋却処分に関する協定」とそれに基づく細目協定を締結しており、協力依頼の連絡を受け作業を開始した。

翌日から埋却場所での仮囲いと掘削を開始。従事企業20社、作業員延べ250名を動員。また、同月1月26日には別の養鶏場から鳥インフルエンザの疑いの通報があり、県と国による検査を経て1月27日に陽性が確定。重複して対応することになり、11社延べ82名が対応にあたり、それぞれ2月3日に作業を完了した。

本支部では、社会的責任において群馬県との協定に基づき、会員企業は懸命な防疫業務に従事した。本会行動指針で「地域を守る建設業の3つの備え」として、災害対応組織力の強化を掲げ様々な体制を築き、今回の豚熱発生に対する防疫作業においても、会員企業は使命感により連日連夜作業に取り組んだ。

こうした取り組みが認められ、令和5年3月17日、群馬県知事から協会本部及び群馬県農村整備建設協会に、群馬県農政部長から前橋支部及び群馬県農村整備建設協会前橋分会にそれぞれ感謝状が贈られた。



作業状況



群馬県農政部長から前橋支部に感謝状贈呈

事例
11

群馬県

CSF（豚熱）防疫活動（一般社団法人 群馬県建設業協会館林支部）

令和4年9月20日、板倉町内の養豚農家から群馬県にCSF疑いの通報があり、県と国による検査を経て9月21日に陽性が確定。群馬県と本会は「特定家畜伝染病発生時における埋却処分に関する協定」とそれに基づく細目協定を締結しており、協力依頼の連絡を受け作業を開始した。翌日から埋却のための掘削作業を開始。従事企業11社、作業員延べ114名を動員。全6日間作業を継続し、9月27日に全ての作業を完了した。

本支部では、社会的責任において群馬県との協定に基づき、会員企業は懸命な防疫業務に従事した。本会行動指針で「地域を守る建設業の3つの備え」として、災害対応組織力の強化を掲げ様々な体制を築き、今回の豚熱発生に対する防疫作業においても、会員企業は使命感により連日連夜作業に取り組んだ。

こうした取り組みが認められ、令和4年11月17日、群馬県農政部長から館林支部及び群馬県農村整備建設協会館林分会にそれぞれ感謝状が贈られた。



群馬県農政部長から感謝状贈呈

事例 12

埼玉県

鳥インフルエンザ防疫活動

(一般社団法人 埼玉県建設業協会大里支部 一般社団法人 埼玉県建設業協会川越支部
一般社団法人 埼玉県建設業協会北埼玉支部 一般社団法人 埼玉県建設業協会飯能支部)

令和4年12月から令和5年1月にかけて、埼玉県内では高病原性鳥インフルエンザが県内4か所で発生し、埼玉県と埼玉県建設業協会が締結している「口蹄疫等家畜伝染病発生時における緊急対策に関する基本協定書」に基づき、埼玉県より大里・川越・北埼玉・飯能の4支部に対して防疫措置の要請があった。

4支部ともに県からの要請に即座に対応し、高度な警戒を伴う中で、影響をできる限り封じ込める防疫措置に貢献した。

特に、令和4年12月16日に深谷市内で発生した鳥インフルは、当季県内で初めてであり、殺処分数としては県内過去最大規模であり、大里支部においては休日返上で防疫措置に貢献した。

また、その後も12月30日に狭山市内で発生し、県からの要請を受けて川越支部が年末年始休み返上で防疫処理の作業を行った。

さらに、令和5年1月25日に行田市内で、1月31日には日高市内で発生し、それぞれ北埼玉支部と飯能支部が防疫措置に貢献している。

いずれにしても、当季は、国内で猛威を振るっている高病原性鳥インフルエンザに備えて、4支部ともに迅速な初動体制が執れるよう、体制強化に努め、影響を最小限に食い止める防疫措置に、大きく貢献した。



R 5.1.10 埼玉建設新聞掲載



R 5.1.27 埼玉新聞掲載

事例
13

岡山県

鳥インフルエンザ防疫活動(及び放送メディアによる広報活動)

(一般社団法人 岡山県建設業協会及び関係する8岡山県建設業協会)

令和4年10月27日に、倉敷市の養鶏場で国内今季初の高病原性鳥インフルエンザが発生した。協会は直ちに対策本部を設置し、発生農場における餌や汚染物品の埋却をはじめ、消毒ポイントにおける施設設営・消毒業務等多岐にわたる防疫活動を開始した。その後県内の4か所で鳥インフルエンザが続発したが、いち早く防疫措置を行い消毒作業に取り組んだことで、周辺地域への感染拡大を封じ込めることができ、一連の防疫業務は年内には終了することができた。

この間、128社の協会員が日常の社業を抱えながら、地域の安全・安心のために24時間態勢で防疫業務に従事し、73.5万羽に及ぶ家禽の処分を行った。

こうした中、消毒ポイントでの作業で近隣住民から苦情が出ないように周知広報を実施することなどを、県農林水産部に対し緊急要請した。その結果、トラブルもなく早期の防疫措置を完了し、畜産業者等から感謝されたところである。

また、これらの活動に対して、知事から協会本部と防疫活動に従事した8支部に感謝状が贈呈されることとなり、贈呈式には協会をPRするために新たに制作した「建設業協会 岡山」のロゴ入りの防災服を全員が着用して出席し、その模様は夕方のニュースなどで報道されたところである。



埋却



知事感謝状贈呈式



消毒作業



防災服

事例 14

宮崎県 鳥インフルエンザ防疫活動（高鍋地区建設業協会）

令和4年11月19日・新富町で発生した宮崎県内今季1例目及び、令和5年1月10日・川南町にて発生した県内3例目の高病原性鳥インフルエンザについて、発生箇所管内を所管とする高鍋支部が、迅速に防疫を務めた。1例目については19日から23日の5日間で約16万羽を延べ25社（41人）、3例目については9日から12日の4日間で約10万羽を延べ27社（44人）で埋却作業を実施。



作業状況(新富町)



作業状況(川南町)

事例 15

宮崎県 鳥インフルエンザ防疫活動（日向地区建設業協会）

令和4年12月21日・日向市にて発生した宮崎県内今季2例目の高病原性鳥インフルエンザについて、発生箇所管内を所管とする日向支部が、迅速に防疫を務めた。21日から22日の2日間で約15万羽を延べ35社（71人）で埋却作業を実施した。



作業状況(埋却)



作業状況(消石灰散布)

事例
16

群馬県

KAMIKABE による防災支援活動（一般社団法人 群馬県建設業協会）

群馬県建設業協会は、新型コロナウイルスのまん延を受け、感染症と自然災害が同時に発生する複合災害に対し、乱雑になりがちな避難所のかたちを整え、避難所に求められるポイントを整理。建設業ならではの提案として、安心なスペース、3密対策、仮住まいの生活の質を高めることを目的に「KAMIKABE」を提案、製作した。

令和2年6月16日に群馬建設会館で行った記者発表時には、実際にKAMIKABEを展示し、多くの関心を集めて一般紙で大きく取り上げられた。また、群馬テレビのみならず、テレビ朝日「スーパーJチャンネル」においても特集が組まれるなど、その関心の高さは大きいものがあつた。

群馬県内の各自治体において組立訓練を行い、実際の製品を寄贈するほか、令和2年7月の九州における豪雨災害に対し、全国道の駅連絡会の協力を得て福岡、熊本、鹿児島各県内にある道の駅7カ所に計100セットを支援した。

その後も継続して備蓄し、令和3年12月には県立沼田高校において訓練を実施し、高崎市立金古小学校では2年続けて展示を行い、太田支部においては太田市と連携して令和4年12月に組立訓練を行った。



KAMIKABE 組立実演及び訓練の様子



R2.7.18 上毛新聞

事例
17

山梨県

防災無線機の貸与および被災情報伝達訓練（一般社団法人 甲府地区建設業協会）

甲府地区建設業協会では、平成24年より毎年「災害時における応急対策業務に関する協定」に基づき、4市1町（甲府市、南アルプス市、甲斐市、中央市、昭和町）、山梨県中北建設事務所、会員企業91社に対して無線機を使用した被災情報伝達訓練を実施している。

東日本大震災時においては、通信手段が機能せず、安否確認・災害復旧要請などが大幅に遅れるという問題が生じた。この経験から、災害時の安否情報を素早く集め、円滑な復旧活動を実施するべく、協会内に無線基地局を配備し、上記4市1町および山梨県中北建設事務所、および会員企業に無線機を無償貸与した。さらに、実際の災害発生に備え、毎年訓練を実施している。



防災無線



情報伝達訓練の様子

事例 18

山梨県

テロ未然防止協定に関する活動（一般社団法人 市川建設業協会）

令和元年の協定締結以降、地域の花火大会会場、2020東京オリンピック聖火リレー会場にて、国際テロリズム未然防止を目的に、重機等で車両突入や人的な妨害活動に協力。

地域の建設業者の協力により、地域を守るための社会貢献を行っている。



聖火リレー テロ防止協力



神明の花火 テロ防止協力

事例 19

奈良県

防災総合訓練（一般社団法人 奈良県建設業協会）

奈良県建設業協会及び会員各協会では、県や市と締結している災害協定に基づいて要請があったという想定のもと、防災総合訓練を国、県や市町村等協力し実施している。

訓練では道路上の倒木や崩土の除去・撤去作業の訓練にあたり、実際の災害発生時にも機敏に動けるよう、関係機関との連携を深めた。



道路をふさいだ土砂や倒木を取り除く



令和4年度は中和建設業協会が参加した

事例
20

北海道

本社ビルロビーを利用した地域活性化（丸彦渡辺建設 株式会社）

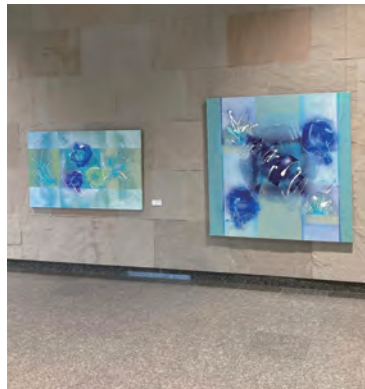
2016年より創業100周年事業として、本社ビルの1階ロビーを利用し、近隣の住民や学生が作成した写真、絵画、陶芸、手芸等の作品の展示、コンサート等を自由に開催できる場として、「まるひこアートスペース和（なごみ）」を開設し、地域活性化や社会福祉などの活動を実施した。



2016.11.01 北海道新聞夕刊



2020.07.29
サマーコンサート風景



2021.10.18～12.17
四人展 明日への歩み



2022.02.01～02.28
いしかり縄文パネル展(石狩振興局主催)



2022.9.1～9.16 こども・アールブリュット展



2022.11.29～12.9 北海道盲導犬協会写真パネル展

事例

21

福島県

地域小中学校の教育活動への支援（渡富建設 株式会社）

渡富建設は、全国に先駆けて小中一貫校としてスタートした郡山市立湖南小中学校の教育活動を支援している。平成24年から毎年、生徒たちが冬季スキー授業に使用する学校の裏山のスキー場ゲレンデを建設機械を使い整備をしている。また、10月に行われる学校の文化祭「水芭蕉祭」においても、体育館における音響設備の貸し出し、設置・撤去、及び当日の音響機械操作を同じく平成24年から毎年、支援している。

この他にも、平成30年度から毎年、建設機械を使用しソフトテニス部のコート整備を行っている。

同社は、創業地である湖南町で子どもたちが元気に成長できるよう自分たちが出来ることを貢献していきたいと活動している。



スキー授業のために毎年ゲレンデを整備



テニスコートの整備も行っている

事例

22

静岡県

～未来の担い手の為に～「ふるさと未来塾」の開校（株式会社 小原組）

令和4年10月5日菊川東中学校の2年生117名を対象に、ふるさと未来塾を開催した。本学習は、菊川市内の地域に密着する各業種の代表企業が、子どもたちに自分たちの住む地域に愛着を持ち、生まれ育った菊川市で暮らし、働くことの良さを考える機会とすることを目的としている。

小原組は、平成27年の本学習の発足当初より、古くから地域に根づく土木建設企業として、市内の建設業者を代表し、子どもたちに地元の建設企業として働く事の魅力を伝えてきた。

令和4年は営業部の社員が講師を担当。より生活に密着した民間工事に多く携わる営業部ならではの視点で、生徒達にいかに建設業が身近で、自分たちの生活の中に息づいているかを、写真を見せながら話した。生徒たちは、時折メモを取りながら真剣に話を聞いてくれた。

講話後は、「いつも使っている道が大雨で水が溜まって通れないのを直してくれたのは、地元の建設業者だったんだと初めて知った」「今までは土木建築という分野に興味がなかったが、今日の講話を聴いて、かつこいいと思った」「建設業はいろいろな場所で活躍していることがわかった。僕も将来は、建設業で働いてみたい」など多くの感想をいただいた。

今後も、土木建設業が如何に人々の生活に密着し、地域を作り守っているかを伝え、一人でも多くの「未来の作り手」が増えるよう、この活動を続けていきたいと考えている。



<http://oharagumi.co.jp>

事例
23

岩手県

重要文化的景観地区内の「春・夏水路整備」活動（一般社団法人 岩手県建設業協会一関支部）

一関市厳美町本寺地区にある骨寺村荘園遺跡一帯は国の重要文化的景観に選定され、世界文化遺産に登録された「平泉の文化遺産」の構成資産に追加する拡張登録も目指している。

骨寺村荘園遺跡の景観保全の観点等から、岩手県建設業協会一関支部では、平成20年3月に土水路等の保全や整備に関してボランティアでの実施を内容とした、骨寺村荘園遺跡水路等の整備に関する協定を締結した。同年から年2回春・秋と継続し令和4年度で15年目の活動となっている。

田園風景を後世に残すお手伝いをしたいとの思いからの活動で、これからも貢献を続けていく。



R 4 重要文化的景観地区内の「春季水路整備」



R 4 重要文化的景観地区内の「秋季水路整備」

事例
24

宮城県

県道花壇への季節の花植えの美化活動（スマイルロードサポーター）

（宮城県建設業協会仙南支部）

宮城県建設業協会仙南支部では県合同庁舎前から柴田農林高校までの3か所県道花壇に毎年2回、花苗の植栽を支部会員企業社員と土木事務所職員と共同で実施している。

花壇の除草と一緒にゴミ拾いも会員企業社員が輪番で行って美化に努め、県道を走行する車のドライバーや歩行者、県合同庁舎来庁者を和ませている。

植栽する花の種類は、夏秋はマリーゴールドとサルビアで約1,300本、冬春はパンジーとチューリップで約2,800本で、花苗は近くの柴田農林高校の生徒が実習で育てたものを購入している。農林高校からも立派な花が間近に見られることで、生徒の実習成果が見られると感謝されている。

このスマイルサポーター道路美化活動に対して、令和4年11月に宮城県知事から感謝状が贈られた。



スマイルロードサポーター花壇除草・清掃活動実施状況 (R4.9.27)



事例 25

宮城県

みやぎスマイルロード・プログラムにおける清掃活動（宮城県建設業青年会）

全国建設青年会議で制定した「全国建設青年の日」事業として行う社会貢献活動を通じ、地元建設業の役割や公共事業の必要性などを広く県民にアピールしながら、地域のニーズを的確に把握するとともに建設業に携わる者が、それぞれの地域の人々や社会と良好なパートナーシップを築き、豊かな自然と共生しながら住みやすい環境づくりに貢献することを目的に実施。

平成26年2月に「スマイルサポーター」の認定を受け、「みやぎスマイルロード・プログラム」として9月～10月の間の年1回、道路美化活動を宮城郡利府町にある宮城スタジアム付近の県道260・270号線の歩道、路肩等において実施。青年会会員企業が、清掃作業を実施し、地域の安全・安心な道路環境づくり等を積極的に取り組んでいる。

その実績が認められ、令和4年1月25日に宮城県知事より感謝状の授与を受けた。



「全国建設青年の日制定事業」活動状況 (R4.10.6)



事例 26

富山県

指定史跡増山城址遊歩道の草刈り、清掃、側溝清掃（富山県建設業協会砺波支部青年部会）

富山県建設業協会砺波支部青年部会では、毎年「全国建設青年の日」に合わせて、支部管内の砺波市、南砺市の街路や公園の環境美化活動を建設業のPRと地域貢献活動を兼ねた行事として平成16年度から実施している。

令和4年度は8月3日に、国指定史跡である増山城址の遊歩道の草刈り、清掃、側溝清掃を行った。この遊歩道は地元有志で管理されていたが、高齢化に伴い十分な管理ができなくなっていたところでもあり、砺波市からの要請もあって実施したものである。

当日は青年部会員19人が参加し、和田川ダム右岸の登山口から増山城二の丸跡までの延長約500mの区間の遊歩道、公園などの草刈り、側溝清掃などをボランティア活動として行った。

青年部会では、建設業は地域に根ざした産業であり、建設業のイメージアップと地域に貢献できるこの活動は今後も継続したいとしている。



砺波市 X (旧 Twitter)



富山新聞 (R4.8.3)

事例
27

佐賀県

佐賀県庁周辺道路の清掃活動（一般社団法人 建設業協会佐賀）

平成28年から毎年実施している本活動は、令和4年で7回を数える。

同協会は、佐賀市に本社所在地がある会社で構成されており、北は福岡市に隣接し、南は有明海までを望むという広い地域で、山から海まで地域の実情に合わせた活動を行っている。

その中でも、佐賀市中心地域で実施する「道路清掃活動」は、永年続けている奉仕活動であり、年2回県庁前周辺地域や佐賀バルーンフェスタ会場周辺で実施していたが、新型コロナの影響で、現在は秋の1回実施に変更している。

県庁周辺は、元々佐賀城内に位置しており、周辺部には公園や文化施設等が多いこともあり、桜やツツジ、県木である楠など自然豊かな景観をなしている。

週末には公園などで各種イベントが実施され、来訪者も増えていることから、周辺を綺麗にして気持ちよく過ごしてほしいとの思いから本活動を行っている。

同協会役員並びに協会員各社が主導して積極的に行っており、今後も活動を続けていくこととしている。



貫通道路沿線



集合写真

事例
28

北海道

豊平川清掃活動（岩田地崎建設 株式会社）

岩田地崎建設は札幌のより良いまちづくりに協力する活動を継続したことが評価され、札幌市より「令和4年度さっぽろまちづくりスマイル企業・シルバー企業」に認定され表彰を受けた。

さっぽろまちづくりスマイル企業認定制度では、一年度間に一定基準以上の地域のまちづくり活動に積極的に協力した企業を「さっぽろまちづくりスマイル企業」として認定している。そして、認定企業のうち、特に積極的にまちづくり活動に取り組み、その功績が顕著であると認められ、3年以上一定基準の活動を継続している企業は「ゴールド企業」「シルバー企業」に認定される。

表彰された一例を挙げると、2007年度から会社周辺市道および豊平川左岸（上白石橋～平和大橋～東橋間）の清掃活動を毎年、年3回行っており、河川敷や草むらの中に捨てられていた、たばこの吸い殻や空き缶などのゴミ拾いを行っている。



豊平川清掃活動



令和4年度さっぽろまちづくりスマイル認定企業表彰式

事例 29

北海道

サイクリングロードの清掃活動（不二工営 株式会社）

不二工営は、平成19年から16年連続で、毎年4月に道内マラソン大会のトップを切って行われる「春一番伊達ハーフマラソン大会」のコース一部を、開催前に環境美化の一環として清掃活動を行っている。

マラソンコースは、サイクリングロード5.4kmで、マラソン大会以外にも桜の名所として市民の散歩コースなど、広く市民に利用されているサイクリングロードである。

清掃活動は、同社と協力会社を含む約30人が参加し、2班に分かれてごみ袋片手に、沿道の空き缶・ペットボトル・木切れなどのごみを拾い、軽トラック2台に積み込み清掃活動を行っている。

なお令和5年度からマラソンコースが変更となり、このコースは使用されないが、市民が今後も気持ちよく利用していただくため、これからも継続して活動する計画である。



事例 30

岩手県

清掃活動『宮城の日』（宮城建設 株式会社）

宮城建設では地域社会と協調するための活動として、平成30年より6月と10月の年2回『宮城の日 清掃活動』と名づけ、全社を挙げて地域の清掃活動を継続して実施している。

令和4年度は6月17日に本社、支社、市内各所の各部社屋周辺の道路、歩道、河川などを清掃し、10月6日には久慈港及び小本港の海岸清掃を行った。これらの活動を通じ、経営理念である「わが社に関わる全ての人々が幸せになる会社を作り、それを通じて社会に貢献する」を具現化するため、全社員が一つとなり積極的に実施している。



久慈港での海岸清掃



小本港での海岸清掃

事例
31宮城県
地域に調和した環境活動（伸和興業 株式会社）

伸和興業は、平成23年1月に宮城県仙台土木事務所のスマイルサポーターに認定され、梅田川の扇町橋から福田橋の両岸（延長1,100m）を年に2回、美化清掃を実施している。

同社で取り組んでいるSDGsに地域社会への貢献を掲げ、地域に調和した環境活動に取り組んでいる。



スマイルリバー・プログラム活動実施状況(R4.6.4)

事例
32宮城県
河川清掃美化運動へ参加と月1町内美化自主活動（株式会社 春日部組）

春日部組はボランティア活動を積極的に行っており、「阿武隈川清掃美化運動」には平成10年の第1回目から毎年参加している。その他にも、平成25年から毎月1回、町内ゴミ拾い活動を実施し、清掃活動してから通常の仕事に就くこととしており、社員一同が積極的に環境美化・保全活動を行っている。

また、「企業は社会と切っても切り離せない関係にあり、広くコミュニケーションを図り、良き企業人として連携と協調を持って社会に貢献する」をモットーに法人会や丸森町観光物産振興公社理事・観光物産館「八雄館」副理事長として地域振興にも貢献している。コロナ禍で丸森町へのインバウンドも減少したことから、放置竹林を活用し、冬の観光スポットとして創出すべく、春日部組が企画し町観光物産振興公社等の協力を得て「竹灯り回廊」を開催した。約2千人を超える見物客が寒い夜の幻想的風景を楽しみ、次年度も開催し、「冬の丸森」観光スポットとして定着させたいと願っている。



阿武隈川清掃美化運動実施状況



竹林に並ぶ竹灯り「竹灯り回廊」を企画

事例 33

福島県

福島市泉地内泉地下歩道清掃活動（佐藤工業 株式会社）

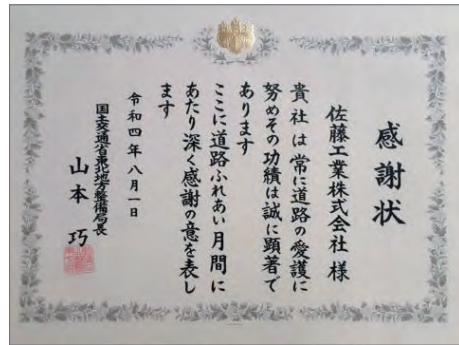
佐藤工業では、会社周辺の福島市泉地内（国道13号福島西道路）にある泉地下歩道の構内、階段、手すり、照明、案内板の清掃を毎月1回実施している。この地下歩道は、近隣の学校の学区内であり、子供からお年寄りまで通行も多い箇所である。

2014年9月から始めた泉地下歩道清掃も2023年3月で101回目を迎えた活動となった。

地元の環境美化・保全に取り組むと同時に、清掃活動中や移動中にお会いする地域住民の方々に挨拶することでコミュニケーションを図り、建設業に対するイメージアップにもつながっていると考えている。



清掃活動実施状況



感謝状

事例 34

福島県

町の中心「亀ヶ城公園」の清掃奉仕活動（藤田建設工業 株式会社）

町の中心部にある棚倉城の跡地は、亀ヶ城公園として町民に親しまれている。梯郭式の平城は残っていないが160mに渡る石垣と270本の桜があり、4月の開花時期には春のお祭り「たなぐらsakuraマルシェ」で賑わう。また、追手門の跡地近くには樹齢600余年の大ケヤキがあり棚倉町のシンボルとなっている。

2014年以降、毎年4月に女性社員互助会「藤の会」を中心に、関連グループ会社も含めた「SDGs委員会」と共に清掃活動を行っており、花見、祭事、散歩、ジョギング等に来園される方々が気持ちよく過ごしていただけるようにしている。

定期的に公園を清掃し綺麗にしていることで、住民や来園される皆様に評価をいただいている。

また、同社も参加している「たなぐらsakuraマルシェ」は毎年4,000人以上が訪れ、大変な賑わいとなる。公園の近くにある同社の駐車場を無料で開放し、町民はもとより来園者の皆様から感謝の言葉をいただいている。



清掃の様子



東白日報 (R4.4.9)

事例
35

福島県

多年にわたる地域清掃活動（石川建設工業 株式会社）

石川建設工業では、これまで長きにわたり本社所在地である「南相馬市原町区大町地区」の清掃活動に努めてきた。日頃から地域のゴミ集積場周辺の清掃等の環境美化に取り組むと共に、地元である相馬地方の伝統の「相馬野馬追」（※国の重要無形民俗文化財）が開催される時期に合わせ毎年祭りが開催される前に社員全員で清掃活動も行ってきた。

このことが地域の環境美化及び衛生向上に貢献したということで、区長をはじめ地域からの推薦もあり、南相馬市より令和4年度の環境美化運動推進協力者団体表彰を授与された。



南相馬市から表彰

事例
36

群馬県

地域の環境美化ボランティア（田畑建設 株式会社）

田畑建設は、平成14年より市道の拡幅改良工事によって発生した藤岡市管理の遊休地に花壇を設置し、毎年花を植えて環境美化を図ることにした。

ボランティア団体名を「田互作」（吾ではなく互）として、社員の中から毎回10～20名の者が入れ替わりながら土地を耕し、肥料を入れ、季節の花を植えている。最近では冬期はパンジー、ビオラを主体とし、夏期から秋頃まではコキアを植えて緑から赤へ変化する彩りを添えている。定期的な水やりと手間のかかる草取りには手を焼いているが、通行する人達や車の方達から「きれいだね」「毎年ありがとう」と言われ、やりがいと張り合いを感じている。

平成27年10月には群馬県知事から、令和元年5月には国土交通大臣から、それぞれ感謝状をいただいた。今後も環境美化に努力して活動していきたい。



花壇の除草、水やり（R4.3.18）



国土交通大臣感謝状

事例

37

神奈川県

公園の清掃・美化活動（株式会社 小島組）

小島組は、株式会社コジマホールディングスグループの傘下で（株）小島組、（株）アーバン、（株）プロミティ、（株）ケッセル、（株）プティティール）の有志女性社員で「すずらん会」を結成し、地域ボランティア活動を行っている。

2006年5月からは厚木市の市民活動である花未来事業に参加し、厚木公園1区画の花壇の手入れや清掃、年2回の花植え作業などを行っている。

厚木公園は市民の方から「はとぼつぼ公園」として親しまれている公園で、作業を行っていると公園で遊んでいる子供達がお花を見て「かわいいお花だね」とか、通行人の方からも「ご苦勞様」や「いつも綺麗にしてくれてありがとう」「綺麗な花だね」と労いの言葉があり、とても励みになっている。また、毎年5月に行われる相模川クリーンキャンペーンやあつぎ鮎祭り早朝清掃にも参加している。

すずらん会の発足は2003年4月で活動を始めて20年を越えた。今後も地元企業として地域に貢献できるように継続して地域美化に努めていきたいと考えている。



年2回の花の植替えの様子



毎月の定期清掃の様子

事例

38

長野県

国道ゴミ拾いボランティア活動（株式会社 小宮山土木）

小宮山土木では、県道の美化清掃をボランティア活動として継続的に取り組んでいる。2006年からは立科町社会福祉協議会と協賛し、国道142号線のゴミ拾いボランティア活動を毎年開催している。

また、他にも企業活動を通じてSDGsの達成に向けた様々な取り組みを進めている。

◆社会福祉活動

- ・立科町社会福祉協議会を通じて就労移行支援の必要な方（障害をお持ちの方・難病のある方等）が一般企業に就職するために必要な訓練の提供などの支援を続けている。

◆SDGsへの取り組み

- ・長野県SDGs推進企業登録（第3期【2023年1月】）後、SDGsの目標達成を目指し活動を継続している。

【省エネ・温暖化対策の計画・取り組み】

自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。エコアクション21 CO₂削減プログラム（Eco-CRIP）に基づき、2008年よりCO₂排出量削減計画を策定し活動している。また、事業活動で必要な電力の一部を太陽光発電の電力で賄うことで、自社のCO₂排出量を削減する取り組みをしている。



ゴミ拾いボランティア活動の様子



太陽光発電で自社のCO₂を削減

事例
39

静岡県

ため池(蛭沢池)の魚の保護と移設についての課外授業(株式会社小松組)

令和4年度ため池群整備事業(ため池緊急整備)ため池群馬込川地区堤体改修2工事において、池の水を抜く際に(池内の耐震工事のため)、池の中の生き物の移設と特定外来種の駆除作業を行った。この活動は、もともと生物好きな現場代理人がため池の生態系に配慮したものだが、なかなか機会のないことでもあり、誰かに見てもらいたいという思いから、現場近くの小学校生徒(亀玉小学校)を招き、魚の保護と移設についての課外授業を企画したものである。当日は、全校生徒と先生合わせて300人がクラスごとのローテーション形式で、1日を通してため池に來場した。桶に移された魚を見せながら特定外来種が及ぼす問題やため池の役割・工事の必要性を伝え、生徒からは「大きな魚がたくさんすんでいることに驚いた」「池の底が深くて意外だった」「いつもの授業と違った雰囲気楽しかった」などの感想をいただき、先生からも「生徒の反応が良かった」「貴重なものが見れた」「大切な工事だとわかった」など感謝の言葉をいただいた。その反響から、人のためになった、成果があったと感じており、工事をしながら自然を守る取り組みを、学びの場として提供したことは、評価したいところである。それ以外にも期間中は、近隣の小・中学校生徒に建設業の魅力を伝える取り組みを積極的に実施した。



施工前にため池にいる生物を保護



子どもたちに実際に目で見て触れて考えてもらう



ため池のゴミ等を処分し、保護した生物を新池へ移設

事例 40

富山県

六渡寺海岸の清掃活動（株式会社 牧田組）

牧田組では、環境保全活動として8年前より、年1、2回六渡寺海岸の清掃活動に参加している。射水市庄西町に位置する六渡寺海岸は、両側を庄川と小矢部川に挟まれた海岸となっており、富山湾でも多くのゴミが流れつく海岸である。

令和4年度は、7月3日に富山県、各市町村等が主催する「民できれいにせんまいけ大作戦」の一環となる清掃活動、9月18日にFMとやまが主催する清掃活動「FMとやま清掃キャンペーン～六渡寺海岸からゴミをなくすには～」に参加した。

本社にほど近い海岸の清掃美化活動を通じて、社員の環境保全・社会貢献の意識を高め、地域に貢献する建設企業を発信している。



清掃活動の様子

事例 41

富山県

道路愛護ボランティアで地域を美しく（安達建設 株式会社）

安達建設では約15年前より年3回、5月・7月・9月に道路愛護ボランティアを行っている。

これは建設業としての使命である地域貢献活動の一つで、地域住民の方々がより過ごしやすい環境で生活してもらおうと続けている活動である。

城端地域では毎年、5月4・5日に約300年前から続いている曳山祭り、9月15日には城端の町がむぎや一色に染まる秋のむぎや祭りが開催されるため、地元住民の方々や祭りを楽しみに来た方に、より城端という地域を魅力に感じてもらいたく、祭りが開催される前に地域清掃を社員一同で取り組んでいる。

本社のある城端地域では、一般国道304号 城端駅～細木交差点はじめ約2Kmを2班に分け清掃活動を積極的に行っている。

また、支店のある上平地域では一般国道156号・道の駅ささら館前から旧上平小学校までを中心に清掃活動を行っている。

このボランティアは2009年の5月以降より5月、7月、9月の年に3回以上を目標に継続して行っており、令和4年はコロナ禍ではありながらも年3回実施することができた。

約15年続いている社内行事として社員の人からも地域住民の方々からも認められている。



平成 28 年 9 月 1 日 道路愛護ボランティア



平成 26 年 5 月 1 日 道路愛護ボランティア

事例
42

石川県

千鳥ヶ浜海岸清掃活動（池田建設工業 株式会社）

池田建設工業では、SDGs活動をきっかけに自社で何かできることがあるのではないかと、自社目標のひとつでもある社会貢献に関する活動として令和2年より取り組んでおり、ゴミ集めに関しては会社職員の有志だけで平成28年ごろから取り組んでいる。

千里浜（千鳥ヶ浜）の海岸では漂着ゴミが多く、夏の行楽シーズンには海水浴客が多く訪れる観光地であるためピーク時にあわせ活動を行っている。

また令和4年の活動では社員20人が2t近くの漂着ゴミを集め、当時地引網体験で訪れた海水浴客から“ありがとう”と声をかけてもらったなど観光地の美化だけでなく、おもてなしにも大いに貢献している。



千鳥ヶ浜海岸の清掃活動



令和4年度の清掃では多くの漂着ゴミを集めた

事例
43

鹿児島

川尻海岸の美化作業（株式会社 常盤建設）

指宿市開聞川尻地区にある川尻海岸の海岸線は、800m以上ある。

川尻漁港が隣接していて、砂浜はアカウミガメの産卵地でもあり、南薩地区の貴重な水産資源・観光資源の地域となっている。

しかし、川尻漁港が外海に面していることもあり、流木などのゴミが砂浜に流れ着き溜まってしまい、景観を悪化させるだけでなくアカウミガメの産卵を困難にしてしまう。

常盤建設は、素足で歩ける砂浜と貴重な水産資源を次世代を担う子供たちに残したいとの思いで、15年以上前から地元の住民やスポーツ少年団などの200名以上のボランティアと一緒に、川尻海岸美化清掃をしている。

清掃にあたり、流木などかなりの量になるため、同社はフォーク付バックホウやキャリアダンプなどの重機やダンプトラックを出動して、大きく貢献している。



開聞岳をバックに川尻海岸清掃活動状況

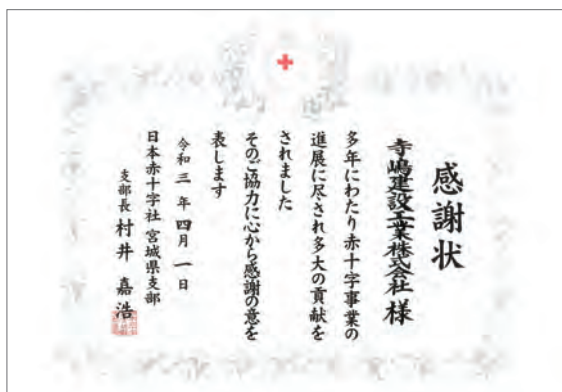


鹿児島建設新聞の紹介記事

事例
44

宮城県
献血推進活動（寺嶋建設工業 株式会社）

寺嶋建設工業では、平成22年より献血活動をはじめ、これまで17回の献血活動を実施している。
令和3年4月1日に日本赤十字社宮城県支部長より感謝状を拝受した。
また、令和4年2月8日宮城県知事より褒状を拝受した。



献血感謝状



献血褒状

事例
45

富山県
地域の防犯パトロール（株式会社 ミヤマサ建設）

ミヤマサ建設は、地域貢献の一環として、平成24年から砺波営業所がある砺波市柳瀬防犯組合に参加し、青色回転灯搭載車（同社所有パトロール車）を導入し、毎月20日防犯パトロール活動を行ってきた。また、当地域で行われる防犯活動へも積極的に参加している。

これらの経験を活かし、令和4年4月から、工事事務所のある富山市古沢地区防犯組合にも参加し防犯パトロール活動を開始した。毎月10日、当地域をパトロール車で巡回している。

また、古沢地区防犯組合と連携して地域開催の防犯イベントへの積極的に参加し、地域住民の方々とのコミュニケーションを図ることにより、地域に根差した事業所として活動している。



防犯パトロール活動



表彰新聞記事

事例
46

兵庫県

租税教室を通じ建設業の重要性を発信（株式会社 秋山組）

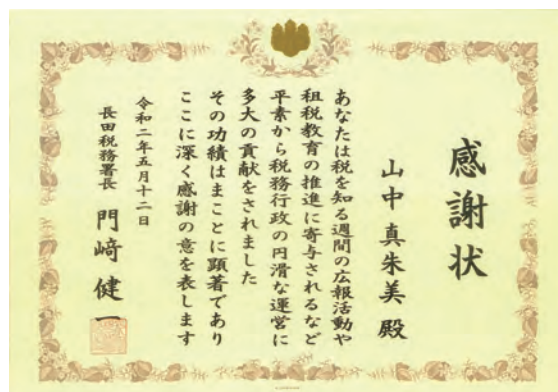
秋山組は、兵庫県神戸市・長田税務署からの依頼を受け、地元長田区内の小学校6年生の生徒を対象に令和元年から租税教室の講師を社員が務めている。

税金はなぜ必要なのか、どのような事に使われているのかを、施工している災害復旧工事や公共下水道工事の説明を交えて授業を行っている。

建設業の必要性や重要性について、建設業を身近に感じてもらえるように説明し、子どもだけでなく、先生をはじめ関係者の方々も大変興味深く話を聴いていただいております。令和5年は、2月9日に神戸市立駒ヶ林小学校で64人の生徒を対象に実施した。この取組に対し、令和2年に長田税務署長より感謝状をいただき、令和3年には大阪ガス株式会社より地域貢献表彰をいただいた。



神戸市立駒ヶ林小学校租税教室風景



令和2年感謝状

事例
47

愛知県

『自然観察会』を通じた次世代への自然環境教育（株式会社 加藤建設）

加藤建設では人と自然の共生を目指し、会社独自で取り組む環境配慮活動「エコミーティング」を2009年より推進している。自然との関りが希薄になりつつある昨今において、豊かな自然を未来に継承するためには、次世代の育成が不可欠である。

そこで、子供たちが自然と親しみ、生き物の魅力を感じ、自然環境の尊さについて学んで頂く“環境教育”の場を『自然観察会』という形で提供している。

＜なごや環境大学共育講座＞

NPO、企業、行政等が分野を越えて協働で運営する“なごや環境大学”共育講座の一環として本社のある愛知県海部郡蟹江町にて自然観察会を開催している。

【対象】保育園・幼稚園、小学生、中学生。親子が対象。

【内容】2017年より開始し、夏と冬の年2回、通算計10回実施している。

夏は昆虫採集や水辺の生き物観察、草木の紹介など。開催にあたっては、学生団体“命をつなくPROJECT”と連携し、学生が目線を取り入れた企画、運営を行っている。

冬は水辺に飛来する野鳥を双眼鏡で観察するバードウォッチングを開催。季節を感じられる内容を心がけ、参加者の方々にも満足していただいている。

＜小学校の課外授業＞

地域の小学生を自社ビオトープへ招き、自然と親しむ“課題授業”を開催している。

【対象】2年生39名、6年生41名。（2022年度実績）

【内容】2年生までは“春と秋の生き物探し”として年2回授業を行い、水辺、草地、森林の3つのエリアで生き物がどういった場所に生息しているのか、季節の違いによる生き物の変化などを学んでもらった。

秋には旬の木の実を用いて、児童一人一人がオリジナルの苗木を作成。

6年生には建設業による自然環境配慮への取り組みや生物多様性を高めるための工夫、また日常生活における自然との繋がりを伝えることにより、自らが環境について考え、行動するきっかけとなるよう心がけた。

陸の豊かさを守る役割のビオトープを通じて、子供たちへ質の高い環境教育を提供することができ、海や陸域の自然を守る将来の担い手づくりにも貢献できた活動であったと感じている。



なごや環境大学共育講座 バードウォッチング



苗木の作成

事例
48

青森県

作業服アップデートと交流会でのファッションショー（新4Kを目指して）

（青森県建設業協会青年部会東青支部）

1 建設業への若手層の入職促進策の一つとして、当会では平成30年より「高校等との交流会」開催や企業紹介「建設業者ガイドブック作成」等により“建設業の魅力発信”に取り組んでいます。そして今回、令和3年に始めた「建設業のイメージをアップデート」する試みを事業化した。

現状の作業服の課題を踏まえ「デザイン性が高い」「着たくなる」「便利な」「快適な」をキーワードに、新しい作業服をデザイナーの協力のもと、各会員によるワークショップを経て製作し、そのお披露目を地元高校生等を対象に行った。

地元の就職促進を図る上で「新3K（給与・休暇・希望）」は勿論大事だが、協会の若手と話して感じるのは物事の内容・本質はさておき、恰好や雰囲気など形にこだわる傾向がある様なので、あえて「新4K（感動・カッコいい・結構モデル・稼げる）を目指して」をキーワードに、建設現場が魅力的なものになっていくための一つの手段として「作業服アップデート」を試みたものである。

2 その作業服お披露目（ファッションショー）は、以前より“建設業の魅力発信”の一環で開催している「高校等との交流会」で行った。会場の席は、生徒が参加した全ての企業と対話ができるようにと各丸テーブルに1名着席する会員が10分交替で移動し、自己紹介～ポーズをとり作業服披露～ものづくりの魅力などを語り意見交換して盛り上げ、企業PRも行った。参加者からは盛んに喝采を浴び、アンケートでも楽しかった、各企業の良さも知って貴重な体験だった、との意見が多数で好評であった。

当日の写真などは冊子にして協会HP等で情報提供しており、高校、大学ほか県・市の東京事務所などには毎年配布している企業紹介集と併せて配布している。

3 今回の取り組みを振り返ると、目的は若手層の入職促進のためのイメージアップであるが、会員ワークショップによるデザイン検討を通じてお互いが共通の話題でコミュニケーションができたことや、社の服デザイン検討で社長以下みんな楽しく会話が弾んだ、などの声が聞こえてきたので、これも成果の一つと思っている。

今後も作業服の製作は継続し、さらに建設現場事務所の掲示板、休憩所スペース、トイレ等についても建設業のイメージをアップデートする試みに取り組んでいきたい。



作業服おしゃれ一新



建設業 新4K を PR

事例 49

和歌山県

建設業のイメージアップのために（有田建設業協会和歌山有田建有会）

地域の建設業は、地域の雇用を支え、自然災害等の発生時には危険を顧みず被災箇所の応急対応を行い、地域の安全・安心を守るなど地域を担う重要な産業であるが、若年人口が減少する中、建設業の就業者数の減少が大きな問題となっている。そのような中で、なんとかせなあかんと平成30年度に有田建設業協会に建設業に従事する後継者などで構成した「和歌山有田建有会」（青年部会）を設立した。

和歌山有田建有会では、建設業の後継者育成や地域を活性化するために毎年計画を立て建設業のイメージアップ活動やボランティア活動を実施している。

令和4年11月20日に、有田川町で開催されたイベント「第1回ありだがわ楽市」を共催し、来場した子供たちやその保護者に対し、建設業のイメージアップを図るため建設機械を使ったブースを出展した。建設機械を体験していただくことで、子ども達とその保護者の方は大変興味を示し、建設業の魅力を発信することが出来た。



建設機械を使ったボールすくい体験



建設機械で書いた文字の前で(建有会メンバー)

事例 50

栃木県

一級河川『永野川』災害復旧事業での広報活動（永野川改良復旧工事等安全協議会）

令和元年東日本台風19号に伴う豪雨により、特に被災の大きかった永野川の市街地区間では、5か所の堤防決壊により甚大な被害が発生した。このため栃木県では、被害の大きかった延長10.6kmの区間を「災害復旧助成事業」を国に申請し採択された。同一河川を工区が多数になり、多くの受注業者となることから、業者間の情報共有化や発注者からの情報の一元化を受けるため「永野川改良復旧工事等安全協議会」を設立した。協議会では、毎月定例的に発注者を含めて、現場代理人との打ち合わせをしており、市民へのPRとして、工事の進捗状況を掲載する【かわら版】を発行し、すでに3回発行している。

また、現場見学会として、堤防ウォーキングを2回開催し、多くの市民の参加をいただいた。さらに、ホームページを開設し、護岸工事の施工前、施工後の状況を閲覧できるようにし、河川の上空から、ドローンにより撮影しホームページへ掲載した。現場安全パトロールを実施して、現場代理人には他の現場のパトロールを通じて、参考になるようすでに8回実施している。

【未来に安心を】「永野川が変わる」「強くなる永野川」を合言葉に協議会一丸となり完了まで事故なく進んでいきたい。



事例
51

滋賀県

現場見学会や試乗体験の日常的な開催、SNS・メディアを活用した広報活動

(有限会社 竜王興産)

竜王興産では、近隣保育園やこども園を対象に現場見学会や重機の試乗体験を継続的に行っている。また、工事現場に重機試乗体験を募集する、オリジナルの看板を設置し、いつでも試乗体験できるような体制を整えている。

また、同社施工工事（橋撤去、杭基礎工）のタイムラプス動画をSNSで掲載し、担い手確保を目指し情報発信も行っている。



日常的な重機試乗体験実施状況



重機試乗体験募集看板の設置状況

事例 52

栃木県

フォトコンテスト(Instagram) (一般社団法人 栃木県建設業協会)

栃木県建設業協会では、創立100周年を迎え、若者に人気のSNS「Instagram」にてフォトコンテストを開催した。青少年から高齢者までの幅広い世代から、予想を遙かに上回る約6,000名以上から応募があり、協会の100年の歴史と建設業の魅力・やりがいを広く県民に発信した。

また、100周年を機に様々な広報活動を行い、次の100年に向け建設業のイメージアップを図った。

◆シンボルマークの刷新・地元新聞への広告掲載

創立100周年を機に、シンボルマークを刷新。栃木 (Tochigi) の「T」、建設 (Construction) の「C」の間に、古来の建築にまつわる「千木」をモチーフに交差する形状をアルファベットの「X=Trance (変える・超える)」に見立てたロゴとした。また、これを活用し「次の100年へさらなる「進化」を目指して」とした新聞広告を掲載した。



シンボルマークを刷新

◆足場シート・仮囲いのペイントを施工現場に設置

創立100周年の足場シートと仮囲いのペイントデザインを会員企業へ頒布し、会員企業の施工現場等に設置。一般の方々に建設業の活動について、イラストを通じて目に触れ感じて頂くよう魅力発信を行った。



施工現場に設置しPR

◆42年ぶりに開催された国体にて建設業のPR活動

令和4年10月に、栃木県で42年ぶりに開催された「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会 (国体・障スポ)」において、専用ブースを設置し、建設業の魅力をPRすべく、会員企業施工の会場施設写真入り「缶キャップ」の配布や、栃木県の“ゆるキャラ”「とちまる君」と建設作業員がコラボレーションした顔抜き特設パネルを設置し、来場者の記念に残る写真撮影ブースを設けた。



思い出に残る記念撮影

◆「建FESGO」～建設のお仕事体験～

令和4年11月27日、宇都宮市 道場宿緑地公園にて「建FESGO！～建設のお仕事体験～」を開催。職業体験や重機試乗等を行った。小学生、保護者の皆様方など延べ4,000名の参加者に建設業の楽しさや重要性への理解を深めていただき、将来一人でも多くの子どもたちが建設業に入職してくれることを目的として実施した。



重機に試乗

事例
53

岡山県

写真集の発刊ならびに写真展の開催（蜂谷工業 株式会社）

災害復旧、日常生活を支える学校や病院の建築、道路や橋梁などの社会基盤整備など、我々建設業の仕事は地域社会の発展になくてはならない仕事である。しかしその仕事ぶりは多くの人の目にふれるものではないのが現状である。今回の写真集発刊や写真展の開催は、われわれ地域建設業のありのままの姿を知ってほしい、建設現場でどんな笑顔が飛び交い、どれほど真剣な眼差しにあふれているかを一人でも多くの方に見ていただきたい、そのような思いから蜂谷工業が企画したものである。写真集の発刊ならびに写真展の開催が地域建設業に対する理解や、イメージアップの一助になると確信している。



トークイベントも開催



ギャラリーにて写真展を開催



書店にて販売



50点の作品を展示